



洋上アルプス

No.255 平成28年6月5日

発行 林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



グリーンサポートスタッフ『GSS』の活動!!

林野庁は、自然性の高い天然生林において入り込み者の増加や登山利用の集中化・大衆化等に伴い、人為による植生荒廃や森林機能の低下が見られることから、森林保護員(グリーンサポートスタッフ)による森林パトロールを実施することとし、平成18年度から天然生林管理水準確保対策事業を実施しています。

これにより貴重な価値ある自然を将来に亘って維持していくこととして、その厳正な保護及びその周辺を含めた森林環境の適切な保全管理を推進しています。

具体的には、世界遺産地域を含む屋久島の登山道等の森林パトロール及び軽微な補修、植生の衰退等の把握、登山者の安全・マナーに対する指導等を行なっています。



保全センターの前でGSSの出発式



・歩道整備



・樹名板の清掃



・登山道倒木処理



・標高板設置

巡視コース	巡視ルート
縄文杉	小杉谷⇨楠川別れ⇨大株歩道入口⇨ウィルソン株⇨大王杉⇨夫婦杉⇨縄文杉
黒味岳	淀川小屋⇨小花之江河⇨花之江河⇨黒味別れ⇨黒味岳
宮之浦岳	淀川小屋⇨小花之江河⇨花之江河⇨黒味別れ⇨投石平⇨翁岳分岐⇨宮之浦岳
太忠岳	荒川橋⇨蛇紋杉(倒木)⇨天文の森⇨太忠岳分岐⇨太忠岳
石塚山	荒川橋⇨蛇紋杉(倒木)⇨天文の森⇨石塚分岐⇨石塚山

巡視コース	巡視ルート
花之江河	荒川橋⇨苔の橋⇨大和杉⇨見晴らし展望台⇨石塚小屋⇨花之江河
小杉谷	弥生杉⇨原生林歩道⇨白谷小屋⇨辻峠⇨太鼓岩⇨辻峠⇨楠川分岐⇨小杉谷
愛子岳	横道⇨岩峰基部⇨愛子岳
モッチョム岳	万代杉⇨モッチョム太郎⇨神山展望台⇨モッチョム岳
蛇之口滝	蛇之口滝
花山広場	カスミ台展望台⇨焼峰⇨花山広場
龍神杉	森林軌道跡⇨耳崩尾根⇨龍神杉

屋久島山岳部利用対策協議会がマナー指導

(4月30日～5月7日)

林野庁、屋久島町等で構成されている屋久島山岳部利用対策協議会は、例年行っているGW中の縄文杉周辺マナー指導を、4月30日から5月7日までの期間実施しました。

当センターと屋久島森林管理署は、4月30日と5月6日を受け持ち、縄文杉デッキ周辺の混雑防止のため、登山者へ一方通行の呼びかけ等を行いました。なお、今回指導を行った期間中の登山者総数は3,714名で、1日あたりの平均登山者数についても、熊本地震の影響等から昨年を下回る結果となりました。



デッキで記念撮影する登山者

有害鳥獣（シカ）捕獲を実施中

(5月16日～)

当センターでは、今年も宮之浦川上流を中心に有害鳥獣捕獲を5月から計画、屋久島の適正頭数、20頭/km²を目標に捕獲を行っています。

現在、屋久島では、4年連続、約5,000頭のシカが捕獲されていますが、捕獲方法をみると、27年度は、くくり罠で5,408頭、猟銃では106頭とくくり罠がここ数年の間に広く普及し捕獲頭数も向上していることが分かります。その中でも上屋久、屋久町猟友会では、年間400頭以上捕獲する名人が3名もおられると聞いています。罠捕獲されている方々へ仕掛け方のポイントを紹介しますので参考にしてください。



今年度も捕獲が始まる！

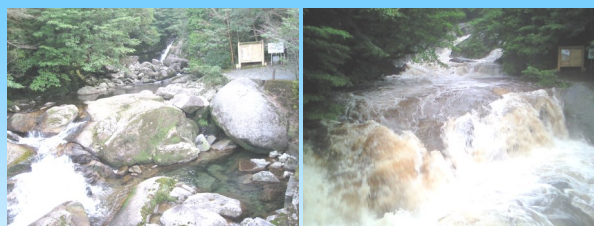
- ① 罠はこまめに場所を変えシカに学習させない。
- ② 誘因餌を使用の場合は、地域により違うこともあるので、食いつきのよい餌を見極める。(カラスザンショウ、コバンモチ等)
- ③ 石や倒木を活用し、シカが足を着く箇所を制限させ罠を仕掛ける。
- ④ 餌を木の上から下げ、その下に罠を掛ける方法も初期は有効。
- ⑤ 誘因餌を使用しなく、シカ道に罠を仕掛ける場合、三叉路交差点や同じ箇所に2ヶ所仕掛けを設置すると捕獲率が上がる。
- ⑥ 雨の降る日は捕獲率が上がるので、前日はこまめに点検する。



笠松式くくり罠

原理：跳ね式でなく、圧縮されたバネが伸びる原理を応用し、ワイヤーが絞まります。

梅雨期は、増水に注意!!



白谷雲水峡 左：平常時 右：増水時

お問い合わせ先

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会

☎ 0997 (42) 3508

月に35日雨が降るといわれている屋久島！東京の年間平均雨量(1,528mm)と比較すると平成27年度は里地の宮之浦で約5,340mm、ヤクスギランドなどの森林や山岳部では、10,000mm以上と約4～7倍にもなります。

去年は、大雨や台風等の影響によりヤクスギランドで15日間、白谷雲水峡で9日間入山規制が行われました。また、白谷雲水峡では、増水の状況によってコースの制限を行うこともあります。これから梅雨本番となりますので注意をお願いします。

屋久島の森とシカ (第2回)

—ヤクシカはいつ屋久島の森に棲みついたか?—

矢原 徹一 (九州大学大学院 教授)

ヤクシカが屋久島の森に与える影響が深刻になっているという話をすると、必ず聞かれる質問があります。ヤクシカは昔から屋久島の森に棲み、屋久島の森と共存してきたのだから、人間が介入しなくてもいずれはシカと森の間で「自然のバランス」が回復するのではないか? この疑問に答えるために、「自然のバランス」について考えてみましょう。

人間が日本列島にやってきたのは最後の氷河時代の中ごろ(約3万5千年前)です。最終氷期は約7万年前に始まり、約1万年前に終わりました。もっとも寒かったのは約2万年前であり、このときには朝鮮半島と九州が陸続きになり、九州本島と屋久島もつながりました。この当時は気温が低かったため、鹿児島島の低地にブナ林が成立しており、照葉樹林は大隅半島などの限られた場所にだけ残りました。

旧石器人が渡来する前の日本には、今より多くの哺乳類がいました。西日本には、中国から移住してきたナウマンゾウ、オオツノジカなど(黄土動物群)が、北日本にはシベリアから移住してきたマンモスやヘラジカなど(マンモス動物群)が生育していました。日本に渡来した旧石器人は、これらの哺乳類を狩って食べ、ついに滅ぼしてしまいました。人間が生態系の中で捕食者の位置をしめ、他の哺乳類を狩るという状態は、気候変動と植生の変化を通じて、約3万5千年間続いてきたのです。

DNA配列の証拠によれば、図のように、ニホンジカは北方系統と南方系統にはっきりと分かります。この2つの系統は、大陸で

約35万年前に分かれたあと、一方はシベリアから北海道へ、他方は朝鮮半島から九州へ移住したと考えられます。屋久島にヤクシカの祖先がわたってきたのは、九州本島と屋久島がつながった約2万年前と考えられます。当時は鹿児島低地にブナが生えていた時代です。この時代から、人間の狩猟がシカなどの個体数を抑制していました。この点を考えれば、シカと森のバランスを回復させるには、人間がある程度の狩猟を行う必要があります。(つづく)

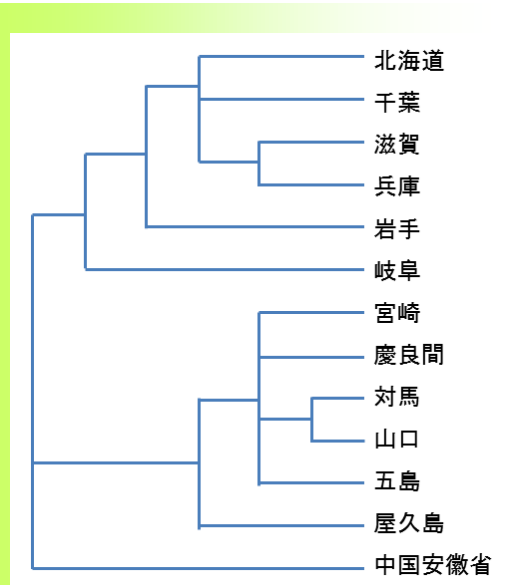
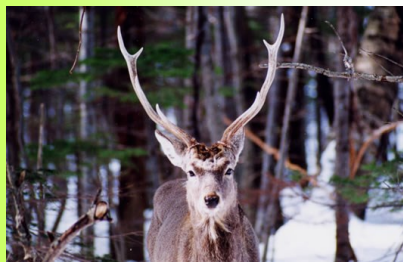


図 ミトコンドリアDNA配列にもとづくニホンジカ集団間の系統関係。
永田純子ほか(1999, Mol. Phy. Evol. 13: 511-519)の図を一部改変。



写真上: ヤクシカ

写真下: エゾシカ(北海道森林管理局HPより)

屋久島の植物



サカキ
(サカキ(ツバキ)科)

関東以西に分布する常緑高木。山地で普通に見られる。葉は互生で枝に対して同じ面を向き、2列に並んで見える。枝葉を神事に使う。「榊」は江戸末期に作られた国字。花は直径1・5センチほどで白色、葉腋に1〜3個下向きにつける。花期6〜8月、果期11〜12月。

屋久島生態系モニタリング



屋久島南部等の植生垂直分布調査（平成25年度）

●標高 1400 ㍍プロット（湯泊歩道沿い）

[高木層] ツガが優占し、個体数は少ないが、アカガシ、スギ、モミが混生。

[亜高木層] サクラツツジ、シキミが多く、サカキ、ヤブツバキ、ヤクシマシャクナゲなどが見られる。

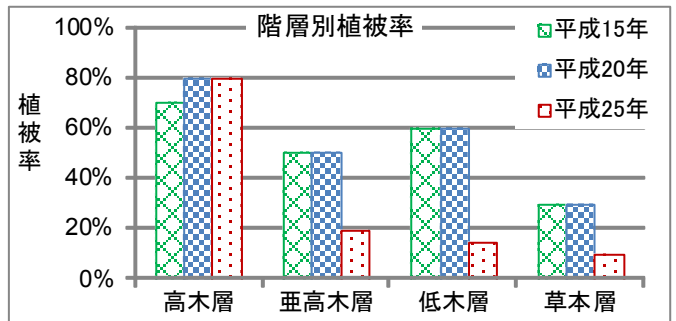
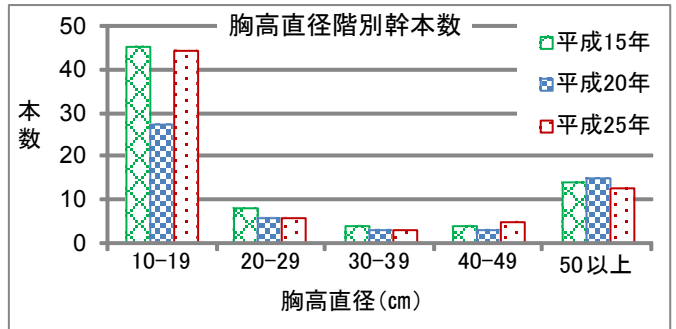
[低木層] サクラツツジ、シキミ、ハイノキが多く、サカキ、ヤブツバキ、ヤクシマシャクナゲ、ヒメヒサカキなどが混生。

[草本層] シカの摂食圧が大きく植生率は低い。ツガの幹上にはオオクボシダなどが着生。下層の草本層には、アセビ、サクラツツジ、シキミ、ハイノキが多く、アクシバモドキ、オオゴカヨウオウレンなども生育。

[胸高直径階別幹本数] 胸高直径 10-19 cmの本数が平成15年度から20年度にかけて減少したが、自然間引きが起きたことが予想された。また胸高直径10-19 cmの本数が20年度から本年度にかけて増加し、15年度と同等の本数となった。

[階層別植生率] 高木層は過年度（平成15年度及び20年度）と本年度で植生率は殆ど変わらなかったが、亜高木層、低木層、草本層については、20年度から本年度にかけて植生率が激減している。被圧による影響以外に、ヤクシカの影響も考えられる。

[調査結果の概要] ツガ、スギが優占する針葉樹天然林。プロットは台風時の暴風を強く受ける南向き尾根付近にある。プロット内には風害を受けたスギ根返り倒木が有り、その部分はギャップになっている。ヤクシカの採食圧のためか、低木層と草本層の植生率が減少。岩上樹上でしか見られない種も増えつつある。



巨樹・著名木 屋久杉

ひげ長老

ひげ長老は、2000年5月に開催された世界遺産会議を記念して一般公募1,150点の中から、当時小学校1年生の竹之内あゆみさんが命名したものです。

根元についた苔がひげのよう。そんな「特徴を見て自然に口から出た名前」で、その風貌は名前のとおりです。

ひげ長老には、サクラツツジ、ヒサカキ、ヤマグルマ、ヒカゲツツジ、ナナカマド、ソヨゴ、スギ等が着生しています。



- 樹高：26.1㍍
- 胸高周囲：8.3㍍
- 樹齢：不明
- 標高：1,090㍍
- 場所：ヤクスギランド150分コース沿い